

成田  
歴史  
玉手箱

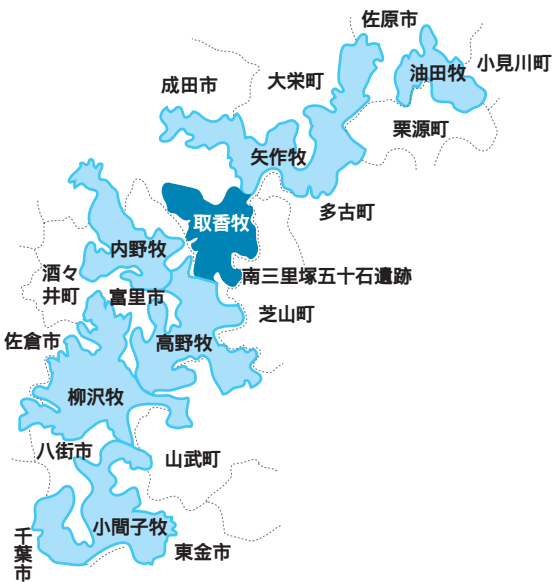
南三里塚五十石込遺跡

# 年に一度、人と野馬との格闘が

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

成田は馬とのかかわりがとても深い地域です。なかでも三里塚地区は、わが国の近代牧畜発祥の地である下総御料牧場があったところで、現在でも数カ所の牧場が見られます。

馬は、乗ったり荷物を運んだりするばかりでなく、戦のときや緊急の情報伝達的手段としても大変重要で、江戸時代、徳川幕府は下総の国に佐倉牧と小金牧の二つの牧場をつくり、みずから馬の飼育を行いました。



佐倉七牧分布図

佐倉牧は佐倉七牧と言われ、左図の7市7町にまたがる広大な面積を持ち、このうち成田市に関係するのは、取香牧、矢作牧、内野牧です。

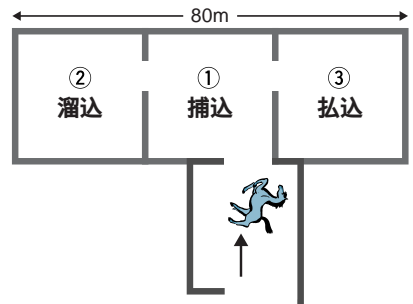
南三里塚五十石込遺跡は、芝山町と隣接する南三里塚にあり、取香牧の捕込跡として古くから知られていました。捕込とは野馬と呼ばれた野生の馬を1カ所に集めて、馬の区分けを行った場所です。遺跡は 捕込 = 馬を捕らえる場所 溜込 = 軍馬として城へ送る馬や、農馬・役馬として払い下げる馬を留めて置く場所 払込 = 若い馬などを野に帰す場所の3つの機能をもっていたと考えられます。現在でも高さ4mほどの土手に囲まれた跡が残っています。

馬を捕らえる作業は、牧場を管理するうえで年1回の最大の行事でした。牧を直接管理する役人である牧士が先頭に立ち、その後を周辺の村々から駆り出された「勢子」と呼ばれる農民が竹ざおを持って大声を出しながらだんだんと馬を捕込跡に追い入れるものでした。この中では勢子が馬に飛びつき綱をかけたたり、引き倒し、牧の焼印を押したり、馬との壮絶な格闘が行われました。この野馬捕りの期間は、周辺の村から見物人が大勢集まり、見世物小屋や食べ物屋なども並び大変なにぎわいだったといわれています。

このような江戸時代の牧場の一端を示す遺跡は、空港内に1カ所ありましたが、現在市内では唯一ここだけで大変貴重な歴史遺産です。草木の生い茂った土手の中に入ると往時の勢子たちと馬の声が聞こえてくるようです。



野馬を追い込む図  
(「成田名所図絵」市立図書館蔵)



南三里塚五十石込遺跡・捕込跡の概略図

編集後記

思わず手に力が入りませんか、本号の表紙。小学生とはいえ、まわしを締めて歯を食いしばっている姿は立派な“力士”です。そんな熱戦を土俵下で見ていると、「巨人、大鵬、卵焼き」という言葉がはやっていたころのことを思い出しました。若い世代のために解説すると、子どもたちに人気のあったものを並べた流行語で、真ん中が最強といわれた横綱の名前です。当時、相撲は子どもたちの間では大人気のスポーツで、いたるところ

で相撲ごっこが行われていました。まわしの代わりにするのがズボンのベルトですから、それを通すひもはすぐブツリ。今でも変わらないのは、こういうときの母親の怒る顔だけかもしれません。大相撲は、横綱・貴乃花の復活で久々に土俵が盛り上がりましたが、最近では相撲の人気も下降気味です。しかし、相撲に限らずどんな競技でも盛り上げるのは、若いスーパースターの出現です。この豆力士たちに期待せずにはいられません。